

北京日本人学校 令和3年度卒業証書授与式

垂大使祝辞

令和4年3月10日（水）

北京日本人学校体育館

卒業生の皆さん、保護者の皆様、本日はご卒業、誠におめでとう
ございます。心より、お慶び申し上げます。

私の子供も、以前この北京日本人学校に在学していましたので、
本日、34名の皆さんが卒業式を迎えられることを我が子のことの
ように嬉しく思っています。

今日のこの卒業の日を迎え、卒業生の皆さんの頭の中には今、何
が思い浮かんでいるのでしょうか。友達と共にこの学校で過ごした
楽しい出来事が次から次へと頭をよぎっているのでしょうか。

一方で、特にこの二年間は新型コロナウイルスにより、皆さんの生
活にも大きな影響があったと思います。中には、同級生やお友達が日

本へ帰国してそのまま退学してしまい、きちんと「さようなら」を言うこともできなかつた人もいるでしょう。

確かに、外国で生活することは、簡単なことではありません。しかし、ここ北京日本人学校で過ごしたことで、日本で生活しては決して得ることが出来ない貴重な経験ができたと思います。

隣国同士である日中の交流の歴史を振り返れば、双方が共に助け合う素晴らしい人間ドラマがたくさんありました。

例えば、皆さんも歴史の授業で、遣唐使として中国に渡った空海のことを学んだと思います。

千年以上前、当時31歳の空海は、大変な思いをして長安にたどり着き、2、3ヶ月でサンスクリット語を習得し、外国人でありながら密教の最高指導者である恵果和尚から奥義を伝授され、日本に戻って高野山を開きました。その後、中国で密教は滅び、空海が修行した長安の青龍寺も千年以上途絶えましたが、日本に伝えられた密教は生き残り、近年、日本の有志により青龍寺も再建されました。

私は昨年、西安を訪問しましたが、その時に訪れた今の青龍寺の住職は高野山で学んだ中国人で、結果として日本から中国への恩返しのようになっています。

空海のような特別な人だけではなく、普通の世界、どんな時代にもこうした人間ドラマは沢山あります。最近の北京冬期オリンピックでは、中国のスノーボード金メダリストの蘇翊鳴選手と日本人の佐藤康宏コーチの師弟関係が、日中両国で大きな感動を生みました。

そしてこれからは、皆さんの時代です。将来どのような分野で活躍されようとも、皆さんもぜひ、中国で生活したことを忘れず、自分なりの人間ドラマの主演となり、日中の架け橋となってくれることを期待しています。

保護者の皆様、外国でのお子さまの教育については、様々な御心配も多かったことと存じます。特にこの二年間は、新型コロナウイルスによる登校停止や行事制限などで、お子様の健康面や学習面の不安もあったと存じます。その中で、こうして、本日、晴れてお子様が卒業の日を迎えられましたことは、保護者の皆様の献身的な愛情

があったからと思います。

今この時に中国に住み、北京日本人学校で学んだからこそ得られた経験を、今後のお子さまの人生のために、最大限生かしていただければと存じます。

最後に、西学校運営理事会理事長、細野校長をはじめとする北京日本人学校の関係者の皆様に、再度、本日の卒業式に対する祝意を申し上げ、私の挨拶と致します。

本日は誠にありがとうございます。

(了)